

B.2 モニタリング実績

①EN-S-002

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間	
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の ヒートポンプにおける電力 使用量	kWh	B	電力計の計測値	月	116,745.0	モニタリング対象時期	
F A P J	プロジェクト実施後の ヒートポンプに当初充 填されている冷媒の量	t	C	カタログ値	年	0.017	カタログ値×台数	R744 (CO ₂)
	プロジェクト実施 後のヒートポンプ に当初充填されて いる冷媒の量	t	C	カタログ値	年	0.006	カタログ値×台数	R407C

※1 プロジェクト計画書に記載した分類 (分類A・B・Cのいずれか) とすること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (又は計測時期)	
E_{BL}	ベースラインの給湯設備のエネルギー消費効率	COP	II	カタログ値から算出する。	プロジェクト開始時	0.79	カタログ値	高位発熱量基準 メーカー仕様書(株式会社ノーリツ)
E_{PJ}	プロジェクト実施後の給湯設備のエネルギー消費効率	COP	II	カタログ値から算出する。	プロジェクト開始時	4.03	カタログ値	メーカー仕様書(三菱重工・三菱電機)から各機器のCOPを算出し、事業所内に設置する台数で加重平均して算出
$HV_{BL, fuel}$	ベースラインの給湯設備で使用する燃料当たりの単位発熱量(灯油)	GJ/k ℓ	III	デフォルト値	年	36.5	デフォルト値	
$CEF_{BL, fuel}$	ベースラインの給湯設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数(灯油)	tCO2/GJ	III	デフォルト値	年	0.0686	デフォルト値	
$CEF_{electricity, t}$	電力のCO2排出係数(電気)	tCO2/kWh	III	デフォルト値	年	0.000554	デフォルト値	全電源排出係数
LR_{PJ}	プロジェクト実施後の熱源設備に充填されている冷媒の漏洩率	%/年	I	点検業者が行う際の封入量と各設備に当初充填されている冷媒の量から漏洩率を算定する。	年	0.0%	モニタリング対象時期	プロジェクト計画書にて算出した影響度(1.2%)を使用
GWP_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩率地球温暖化係数	tCO2e/t	III	デフォルト値	年	1.0	デフォルト値	R744(CO2)
	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩率地球温暖化係数	tCO2e/t	III	デフォルト値	年	1,770.0	デフォルト値	R407C

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか）とすること。

(1) 活動量 (燃料消費量、生成熱量、生産量等)

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績			備考	
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値		計測対象期間		
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	B	電力計の計測値(2015年度)	月	冷房	30,146.1	ベースライン灯油使用分	30,942.0	ベースライン排出量算定には、電力量の実測値を灯油及び電力の使用比率にて分割して使用する。 [計画時]ベースラインの空調設備による生成熱量(GJ/年) (冷房)灯油:電力=651.5:17.2 (暖房)灯油:電力=265.0:18.9
							795.9	ベースライン電力使用分		
						暖房	88,388.1	ベースライン灯油使用分	94,692.0	
							6,303.9	ベースライン電力使用分		
EL _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量	kWh/年	B	電力計の計測値(2016年度)	月	冷房	35,182.2	ベースライン灯油使用分	36,111.0	
							928.8	ベースライン電力使用分		
						暖房	37,514.4	ベースライン灯油使用分	40,190.0	
							2,675.6	ベースライン電力使用分		
FA _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に当初充填されている冷媒の量	t	C	カタログ値	年	0.14		カタログ値	R744(CO2)	
FA _{before}	更新前の空調設備に当初充填されている冷媒の量	t	C	カタログ値	年	0.01		カタログ値	R407C	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類 (分類A・B・Cのいずれか) とすること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績			備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (又は計測時期)		
CEF _{BL, fuel}	ベースラインの給湯設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数(灯油)	tCO2/GJ	Ⅲ	デフォルト値	年	0.0686	デフォルト値		
CEF _{electricity, t}	電力のCO2排出係数(電気)	tCO2/kWh	Ⅲ	デフォルト値	年	0.000569	デフォルト値	限界電源排出係数 0 ≤ t < 1	
					年	0.0005615	デフォルト値	限界電源排出係数 1 ≤ t < 2.5	
LR _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩率	%/年	I	点検業者が行う際の封入量と各設備に当初充填されている冷媒の量から漏洩率を算定する。	年	0.0%	モニタリング対象時期		
GWP _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩率地球温暖化係数	tCO2e/t	Ⅲ	デフォルト値(R-410A)を利用する。	年	2,090.0	デフォルト値		
GWP _{before}	更新前の空調設備に充填されている冷媒の地球温暖化係数	tCO2e/t	Ⅲ	IPCC4次レポートの(R22)数値を採用する。	年	1,810.0	デフォルト値		
ε _{BL}	ベースラインの空調設備のエネルギー消費効率	COP	Ⅱ	カタログ値から算出する。	プロジェクト開始時	冷房	0.91	カタログ値	高位発熱量基準 竣工図面、メーカー仕様書(三菱電機)
						暖房	1.02		
ε _{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備のエネルギー消費効率	COP	Ⅱ	カタログ値から算出する。	プロジェクト開始時	冷房	3.90	カタログ値	高位発熱量基準 メーカー仕様書(三菱電機)
						暖房	3.82		

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか）とすること。

B.3 排出削減量の算定方法

B.3.1 排出削減量の評価

合計

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	175
<i>EM_{BL}</i>	ベースライン排出量 ※1	tCO2	356.0
<i>EM_{PJ}</i>	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	179.1
	付随的な排出量（影響度による評価）	tCO2	1.0

①EN-S-002

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	81
<i>EM_{BL}</i>	ベースライン排出量 ※1	tCO2	147.3
<i>EM_{PJ}</i>	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	64.7
	付随的な排出量（影響度による評価）	tCO2	1.0

②EN-S-004

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	94
<i>EM_{BL}</i>	ベースライン排出量 ※1	tCO2	208.7
<i>EM_{PJ}</i>	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	114.4

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

B.3 排出削減量の算定方法

①EN-S-002

B.3.1 排出削減量の評価

(1) 算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量の算定

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした活動のモニタリング結果に基づき排出削減量を算定すること。

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	算定値
ER	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	82.0
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2	147.3
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	64.7

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

(2) 付随的な排出活動に基づく排出量の影響度による評価

注) プロジェクト計画書において「排出量を算定する。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する」と選択したプロジェクト実施後の付随的な排出活動の排出量の評価を行うこと。(1)で算定した排出削減量に対して

計画書で定めた影響度を垂じて算定を行うこと

排出活動	影響度 (%) ※1	排出量 (tCO2)
ヒートポンプの冷媒の漏洩	1.2%	1.0

※1 プロジェクト計画書で評価した影響度を記載すること。

(3) 排出削減量の評価

注) (1)で算定した排出削減量から(2)で評価した排出量を差し引くことにより、排出削減量を算定すること。

記号	定義	単位	算定値
ER	排出削減量	tCO2	81.0
	(1)で算定した排出削減量	tCO2	82.0
	(2)で評価した排出量(※1)	tCO2	1.0

※1 (2)で評価した排出量の総和を記載すること。行を追加して記載した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

B.3.2 プロジェクト実施後排出量

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした排出活動について、プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び本報告において認証を申請する期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 プロジェクト実施後のヒートポンプが温水を生産する場合の生産に係る排出量を算出する。

$$EM_{PJ,M} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (\text{式3})$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	64.7
EL_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプにおける電力使用量	kWh/年	116,745.0
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000554

※1 主要排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

(2) 付随的な排出活動

ベースラインの熱源設備で冷媒を使用しておらず、プロジェクト実施後のヒートポンプで代替フロン冷媒を使用するため、ヒートポンプの冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後排出量を考慮する。また、ベースラインの熱源設備で冷媒を使用していないので、更新前のヒートポンプの廃棄を伴うプロジェクト実施後排出量は考慮しない。なお、再加熱のための温水搬送設備は設置されていないため算定しない。

(考え方) ※1

$$EM_{PJ,S,leak} = LA_{PJ} \times GWP_{PJ} \quad (式10)$$

$$LA_{PJ} = FA_{PJ} \times LR_{PJ} \quad (式11)$$

記号	定義	単位	算定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	0.0
$EM_{PJ,S,leak}$	ヒートポンプの冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後の排出量:合計	tCO2/年	0.0
	ヒートポンプの冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後の排出量:R744(CO2)		0.0
	ヒートポンプの冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後の排出量:R407C		0.0
LA_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプに当初充填されている漏洩量:R744(CO2)	t/年	0.000
	プロジェクト実施後のヒートポンプに当初充填されている漏洩量:R407C		0.000
FA_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプに当初充填されている冷媒の量:R744(CO2)	t	0.017
	プロジェクト実施後のヒートポンプに当初充填されている冷媒の量:R407C		0.006
LR_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプに充填されている冷媒の漏洩率:R744(CO2)	%	0.0%
	プロジェクト実施後のヒートポンプに充填されている冷媒の漏洩率:R407C	%	0.0%
GWP_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプに充填されている冷媒の地球温暖化係数:R744(CO2)	tCO2e/t	1
	プロジェクト実施後のヒートポンプに充填されている冷媒の地球温暖化係数:R407C		1,770

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.3.3 ベースライン排出量の考え方

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後のヒートポンプによる生成熱量を、プロジェクト実施後のヒートポンプからではなく、ベースラインの熱源設備から得る場合に想定されるCO₂排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

$$Q_{BL,heat} = Q_{PJ,heat} = EL_{PJ} \times \varepsilon_{PJ} \times 3.6 \times 0.001 \quad (\text{式13})$$

記号	定義	単位	実績値
$Q_{BL,heat}$	ベースラインの熱源設備による生成熱量	GJ/年	1693.7
$Q_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後のヒートポンプによる生成熱量	GJ/年	1693.7
EL_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプにおける電力使用量	kWh/年	116,745.0
ε_{PJ}	プロジェクト実施後のヒートポンプのエネルギー消費効率	-	4.03

B.3.4 ベースライン排出量

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL,M} = Q_{BL,heat} \div \varepsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式17})$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO ₂ /年	147.3
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO ₂ /年	147.3
$Q_{BL,heat}$	ベースラインの熱源設備による生成熱量	GJ/年	1,693.7
ε_{BL}	ベースラインの熱源設備によるエネルギー消費効率	-	0.789
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの熱源設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO ₂ 排出係数	tCO ₂ /GJ	0.0686

(2) 付随的な排出活動

(考え方) ※1 ベースライン熱源設備は冷媒を使用しない為規定されない。

(式)

記号	定義	単位	実績値
$EM_{BL,S}$	ベースラインの付随的な排出量	tCO ₂ /年	

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.3 排出削減量の算定方法

②EN-S-004

B.3.1 排出削減量の評価

(1) 算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量の算定

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした活動のモニタリング結果に基づき排出削減量を算定すること。

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	算定値
ER	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	94.0
EM_{BL}	ベースライン排出量 ※1	tCO2	208.7
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	114.4

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

$$EM_{PJ} = EM_{PJ,M} + EM_{PJ,S} \quad (\text{式2})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
EM_{PJ}	プロジェクト実施後排出量	tCO2/年	114.4
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	114.4
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	0.0

(2) 付随的な排出活動に基づく排出量の影響度による評価

注) プロジェクト計画書において「排出量を算定する。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する」と選択したプロジェクト実施後の付随的な排出活動の排出量の評価を行うこと。(1)で算定した排出削減量に対して計画書で定めた影響度を乗じて算定を行うこと。

排出活動	影響度 (%) ※1	排出量 (tCO2)
空調設備の冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後排出量	35.8%	0.0

※1 プロジェクト計画書で評価した影響度を記載すること。

(3) 排出削減量の評価

注) (1)で算定した排出削減量から(2)で評価した排出量を差し引くことにより、排出削減量を算定すること。

記号	定義	単位	算定値
ER	排出削減量	tCO2	94.0
	(1)で算定した排出削減量	tCO2	94.0
	(2)で評価した排出量(※1)	tCO2	0.0

※1 (2)で評価した排出量の総和を記載すること。行を追加して記載した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

B.3.2 プロジェクト実施後排出量

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした排出活動について、プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び本報告において認証を申請する期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 方法論a-1) の「プロジェクト実施後の空調設備におけるエネルギー使用量から算定」する。

$$EM_{PJ,M} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (式3)$$

記号	定義	単位	実績値	
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	冷房	37.9
			暖房	76.5
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量 (2015年度)	tCO2/年	冷房	17.6
			暖房	53.9
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量 (2016年度)	tCO2/年	冷房	20.3
			暖房	22.6
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量(2015年度)	kWh/年	冷房	30,942.0
	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量(2016年度)		暖房	94,692.0
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数(2015年度)	tCO2/kWh	冷房	0.000569
	電力のCO2排出係数(2016年度)		暖房	0.0005615

※1 主要排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

(2) 付随的な排出活動

(考え方) ※1 ベースラインの空調設備では指定フロンを使用しており、プロジェクト実施後の空調設備で代替フロンを使用するプロジェクトであることから空調設備の冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後排出量は考慮する。また、特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律 第19条に規定する第一種特定製品廃棄等実施者にプロジェクト実施者が該当するが、同法に定める引取証明書等と同等の書類を工事業者から受領しているため、「冷媒を使用する更新前の空調設備の廃棄を伴うプロジェクト実施後排出量」は省略する。

$$EM_{PJ,S,leak} = LA_{PJ} \times GWP_{PJ} \quad (式8)$$

$$LA_{PJ} = FA_{PJ} \times LR_{PJ} \quad (式9)$$

記号	定義	単位	算定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	0.0
$EM_{PJ,S,leak}$	空調設備の冷媒の漏洩によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.0
LA_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備における冷媒の漏洩量	t/年	0.000
FA_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に当初充填されている冷媒の量	t	0.017
LR_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩率	%	0.0%
GWP_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備に充填されている冷媒の漏洩率地球温暖化係数:R410A	tCO2e/t	2090

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.3.3 ベースライン排出量の考え方

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
 また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の空調設備による生成熱量を、プロジェクト実施後の空調設備からではなく、ベースラインの空調設備から得る場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

$$Q_{BL,heat} = Q_{PJ,heat} = EL_{PJ} \times \varepsilon_{PJ} \times 3.6 \times 0.001 \quad (\text{式11})$$

記号	定義	単位	実績値	
$Q_{BL,heat}$	ベースラインの空調設備による生成熱量 (ベースライン燃料: 灯油)	GJ/年	冷房	917.2
			暖房	1,731.4
	ベースラインの空調設備による生成熱量 (ベースライン燃料: 電力) (合計)	GJ/年	冷房	24.2
			暖房	123.5
ベースラインの空調設備による生成熱量 (ベースライン燃料: 電力) (2015年度)	GJ/年	冷房	11.2	
		暖房	86.7	
ベースラインの空調設備による生成熱量 (ベースライン燃料: 電力) (2016年度)	GJ/年	冷房	13.0	
		暖房	36.8	
EL_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量 (ベースライン燃料: 灯油)	kWh/年	冷房	65,328.3
			暖房	125,902.5
	プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量 (ベースライン燃料: 電力) (合計)	kWh/年	冷房	1,724.7
			暖房	8,979.5
プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量 (ベースライン燃料: 電力) (2015年度)	kWh/年	冷房	795.9	
		暖房	6,303.9	
プロジェクト実施後の空調設備における電力使用量 (ベースライン燃料: 電力) (2016年度)	kWh/年	冷房	928.8	
		暖房	2,675.6	
ε_{PJ}	プロジェクト実施後の空調設備のエネルギー消費効率	COP	冷房	3.90
			暖房	3.82

B.3.4 ベースライン排出量

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$(ベースライン燃料:灯油) \quad EM_{BL,M} = Q_{BL,heat} \div \varepsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (式16)$$

$$(ベースライン燃料:電力) \quad EM_{BL,M} = EL_{PJ} \times \varepsilon_{PJ} / \varepsilon_{BL} \times CEF_{electricity,t} \quad (式15)$$

記号	定義	単位	想定値	
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量 (ベースライン燃料:灯油)	tCO2/年	冷房	69.1
			暖房	116.4
EM_{BL}	ベースラインの主要排出量 (ベースライン燃料:電力)(合計)	tCO2/年	冷房	4.2
			暖房	19.1
	ベースラインの主要排出量 (ベースライン燃料:電力)(2015年度)	tCO2/年	冷房	1.9
			暖房	13.4
	ベースラインの主要排出量 (ベースライン燃料:電力)(2016年度)	tCO2/年	冷房	2.2
			暖房	5.6
ε_{BL}	ベースラインの空調設備のエネルギー消費効率	COP	冷房	0.91
			暖房	1.02
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの空調設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数(灯油)	tCO2/GJ	0.0686	
$CEF_{electricity,t}$	ベースラインの空調設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数(電気)(2015年度)	tCO2/kWh	0.000569	
	ベースラインの空調設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数(電気)(2016年度)	tCO2/kWh	0.0005615	

(2) 付随的な排出活動

(考え方) ※1 冷温水発生機は冷媒を使用しないため、排出量の算定は行わない。また、空冷ヒートポンプエアコンは冷媒の充填を行わなかったため評価しない。

(式)

記号	定義	単位	実績値
$EM_{BL,S}$	ベースラインの付随的な排出量	tCO2/年	

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.4 省エネルギー量の算定

燃料種別 (※1)	認証を申請する期間 (2015年4月1日～2016年12月31日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)※2		原油換算 (Kl)※2		
	単位	ベースライン	プロジェクト 実施後	ベースライン	プロジェクト 実施後	ベースライン (①)	プロジェクト 実施後 (②)	ベースライン -プロジェクト 実施後 (① -②)
灯油	k l	118.3	0	4,342.3	0	112.0	0.0	112.0
購入電力	k W h	10,704.2	318,680.0	106.7	3,177.2	2.8	82.0	-79.2
							合計	32.8

※1表に記載の燃料以外を用いる場合には、行を追加して記載すること。

※2熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。